

課コード	001103	作成日	平成20年3月31日
所属名	子育て支援課	作成者	杉浦定次

政策名(上位目的)
安心して子育てができる支援事業の推進
目の名称
家庭福祉費

	分野	部	課	施策・事務事業		
計画コード				事項		
	款	項	目			
科目コード	11	06	09	06		
(旧科目コード)	11	06	06	17	00	00
	11	06	06	20	00	00

事業名		戦略性
ひとり親家庭等支援事業		
事業概要		
目的 (対象、意図、求められる結果)	開始年度	終了予定年度
母子、父子家庭及び寡婦の生活の安定と向上のため活動する団体を支援し、児童の健全育成、家庭における健康で文化的な生活及び生活意欲の増進を図る。 社会的弱者団体である母子寡婦福祉団体の保護育成と諸活動の円滑な推進を図るため、補助金を交付する。	昭和 39 年	年
活動内容		
【ひとり親福祉団体助成事業】 母子寡婦福祉団体が支出した修養費のうち3分の2を助成する。(会員数に応じた上限あり) 《平成19年度実績》		
交付先	浜松市母子寡婦福祉会	舞阪町母子寡婦福祉会
交付額	250千円	100千円
会員数	110人(母子88人、父子10人、寡婦12人)	37人(母子1人、父子0人、寡婦36人)
補助対象	パソコン講習会 指導者講習会 白百合研修会	視察研修会 体験研修会(1) 体験研修会(2)
		「母子」20歳未満の児童を養育する母子家庭 「父子」20歳未満の児童を養育する父子家庭 「寡婦」かつて母子家庭として児童を養育し、 現在も配偶者がいないもの
事業の性格分類	実施根拠(法令、条例等)	新市建設計画事業 リークエスト提案事業
義務的事業 任意的事業	浜松市補助金交付規則、浜松市母子寡婦福祉団体補助金交付要綱	× ×
事業運営方法		
直営 一部委託 全部委託 補助等		

		H17年度決算	H18年度決算	H19年度最終予算	H20年度当初予算	H21年度計画額	H22年度計画額	前期4年間計
財源内訳	事業費(千円)	250	350	350	350			
	国庫支出金							
	県支出金							
	市債							
	受益者負担分(使用料等)							
	その他							
内訳	一般財源	250	350	350	350			
	人件費	800	800	800	800			
	人工	0.10	0.10	0.10	0.10			
計	単価	8,000	8,000	8,000	8,000			
	年間経費	1,050	1,150	1,150	1,150			
	受益者負担率	0	0	0	0			

性質別内訳												
平成	人件費	扶助費	公債費	物件費	維持補修	補助費等	積立金	投資及び出資金	貸付金	繰出金	投資的経費	公営企業
18	800					350						
19	800					350						
20	800					350						

定量評価							
指標1		単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
	目標	人					
	実績	人					
年間経費(事業費・人件費の合計)		千円	1,150	1,150			
単位当たり経費		千円/単位	#DIV/0!	#DIV/0!			
単位当たり経費変動率		%		#DIV/0!			

指標2							
		単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
	目標	人					
	実績	人					
年間経費(事業費・人件費の合計)		千円	1,150	1,150			
単位当たり経費		千円/単位	#DIV/0!	#DIV/0!			
単位当たり経費変動率		%		#DIV/0!			

定性評価			
過年度の実施内容			
浜松市内の2団体に対し補助金を交付した。			
事前評価	必要性	A 高い B ↑ C ↓ D 低い	(分析・理由) 母子、父子及び寡婦家庭の生活の安定と向上、健康で文化的な生活と経済的自立及び生活意欲の増進を図るため、様々な問題を抱える社会的に弱い立場の母子家庭等が活動する団体を支援するものである。
	行政関与の妥当性	A 高い B ↑ C ↓ D 低い	(分析・理由) 社会的に弱い立場の人たちが生活の中で直面する諸問題の相談や家庭の精神的な安定を図り、生活意欲を増進させるために活動する団体に行政が支援するものである。
事後評価	有効性	A 非常に有効 B やや有効 C あまり有効でない D 有効でない	(分析・理由) 合併により2団体に支援しているが、団体の活動内容などに温度差が見受けられるところである。
	効率性	A 単位当たり経費が前年比マイナス B 単位当たり経費が前年とほぼ同じ C 単位当たり経費が前年比プラス D 評価できない	(分析・理由) 生活の安定や生活意欲の増進は、効率性や数値では評価することができないものである。
今後の事業展開			
規模			(分析・理由)
現状	拡大・充実 現状のまま継続 縮小 廃止		母子家庭等に対しては、生活の安定や自立に向けた支援が重要であり、生活意欲の向上が図られる。
具体的な改善内容・事業の方向性等			
自ら進んで自立を図り、家庭生活の安定と向上に努める方向に導き、健康で文化的な環境を整えるため効果的な支援をしていきたい。			
(問題意識) 平成17年7月の合併により、旧市町の7母子会のうち5会は若年会員の確保が難しく、会員の高齢化が進んでいるため解散し、旧浜松市に統合した。現在は、新しく統合した浜松市母子寡婦福祉会と、旧舞阪町からの舞阪町母子寡婦福祉会が活動している。旧舞阪町で実施していた補助金交付事務が浜松市に引き継がれ、現在に至っているが、舞阪町母子寡婦福祉会も高齢化が進んでいるうえ限られた地域での活動である。			
(想定結果) 市の実施が適当だが改善を要するもの			
〔備考〕事業に対する市民・市民活動団体・事業者・議会からの指摘			